

第二部大規模感染症予防・制圧体制検討分科会（第25期・第14回）

議事要旨

1 日 時 令和4年2月18日（金）19：30～22：30

2 会 場 ビデオ会議

3 参加者(敬称略)

分科会委員：相澤彰子、秋葉澄伯、岡本尚、郡山千早、高井伸二、
高倉弘喜、中川晋一、糠塚康江、平井みどり、三鴨廣繁
(委員13名中10名出席)

オブザーバー：岩崎博道、尾崎紀夫、加藤茂孝、菅野純、喜連川優、
小泉祐介、白井千香、杉山雄大、武田洋幸、丹下健、丹田智美、
中村眞、望月眞弓、山下輝夫

講演者： 北野宏明、田中純子、高山義浩

事務局： 増子、小川、穴山

4 議 事

(1) 「オミクロン株」の呼称について

検討を行い、今後も議論を継続していくこととした。

(2) 講演と質疑

① 「COVID-19 感染に対する今後の対策について」

北野宏明氏（内閣官房新型コロナウイルス感染症対策・AI シミュレーション検
討会議座長、人工知能研究開発ネットワーク会長）

《講演概要》

- ・ 東京都の現状について（入院、重症患者、新規陽性者数）
- ・ 各シミュレーションの結果から
患者数推移、人流、都市別人口レベルでの免疫効果
年代別感染者動向、発症日別陽性者数推移、
発熱相談センター相談件数等

② 「新型コロナウイルス感染症対策について」

田中純子氏（日本学術会議連携会員、広島大学理事・副学長、
大学院医学系研究科教授、広島県感染症・疾病管理センター感染症専門員）

《講演概要》

- ・ 特に昨年12月以後の感染拡大状況
- ・ 広島県の感染者調査の解析

- ・ ウイルス・疫学的視点から見た感染状況
- ・ 大規模抗体調査からみた感染状況

③「沖縄県における第六波の経験と医療提供体制」

高山義浩氏（沖縄県立中部病院感染症内科・地域ケア科 副部長）

《講演概要》

- ・ 平時の取り組みについて
- ・ 流行状況について
 - 都道府県別流行状況
 - 沖縄県における流行状況
- ・ 沖縄県における施設療養の支援
 - 社会福祉施設における陽性者施設療養の状況
 - 社会福祉施設における集団感染と支援の流れ
- ・ 医療提供体制
 - 新規陽性者への対応と医療提供の流れ
 - 自宅医療者に対する在宅医療導入の流れ
 - 急速に増大する医療需要への対応
 - 沖縄県における医療提供の基本戦略
- ・ 超高齢社会へ
 - 社会保障制度改革国民会議報告書「医療介護分野」2013 年
 - 沖縄県病床利用率
 - 都道府県別にみる 75 歳以上人口の将来設計

《質疑応答》

Q：人流抑制とワクチン接種の低さ以外に今回の第六波のファクターは何か。

A：前回と比べ接種率が低い、夜間の人流は下がっている。感染経路が子供中心という点も大きいと思う。

Q：終息場面はどういう状況になると考えられるか。

A：マスクとワクチン接種、湿度等の気候条件による。また「重症」の判断基準が変わってきたため、再度の議論が必要だろう。

A：リバウンドもあり、終息を語るのは無理な状況。沖縄県での三回目ワクチン接種に関しては健闘している。

Q：同一株の広がりの意味するものは何か。オミクロン株は変異を起こしやすいというわけではないのか。

A：ウイルスは絶えず変異を繰り返している。従来株や以前株と比較して、オミクロン株は感染から発症までの期間が短いと報告されているが、これを示していると考えている。

Q：一般病床における、他の疾患への対応に影響についてはどうか。

A：その問題では多くの議論がある。また後遺症としての精神疾患については今後精神科領域での調査で明らかになっていくと思う。

Q：マスメディアに理解してもらい、正しい情報発信を行うためにはどうすべきか。

A：沖縄県では記者会見と別に非公式の懇話会を設けており、沖縄メディアは比較的理性的に報じている。本質的ディスカッションの場はあったほうがいいと思う。

A：マスメディアを通して「オミクロンは重症でない」ように伝わっている感があるが、メディア報道の在り方について発信することも考えられるのではないかな。

Q：地域での濃厚接触者のいる家庭におけるケアと行動制限について伺いたい。

A：濃厚接触者は基本的な対策を取れば良いかと思う。濃厚接触者だけに行動制限を求めるのは適切でないと感じている。

Q：第六波における「まん延防止等重点措置」は、もっと早く実施すべきだったのではないかな。

A：沖縄では成人式の三連休前を目標に実施した。

A：いずれの地域でも、これまでの経験値を元に拡大を予測し措置をかけること、解除することが望まれる。早い時点で感染拡大を予測できれば、措置をかけることができるが、第六波の急速な感染拡大は予測困難で、措置実施の判断は難しかったと思う。

《その他のコメント》

- ・地域医療としてできる医療を皆がやれば、乗り切れるのではないかなと思う。
- ・北九州市では 医療機関との連携、介護施設と医療がどう連携するかが課題となっている。
- ・いまの奈良県の問題は、救急搬送の受け入れ先が見つからないことであり、最近酸素ステーションを作った。医療関係の引継ぎがネックになっている。

—以上—